

ロータリーパーカッションドリル

大口径、深度100メートル対応

日特建設

岸壁耐震補強受注拡大狙う

日特建設は、国内最大級の施工能力を持つグラウンドアンカー施工用削孔機（ロータリーパーカッションドリル）を開発した。従来機と比較しドリルを上下させるフィード力で約2・5倍、回転させるトルクでは約3倍の能力を持つ。同社は開発した新型機を武器に、

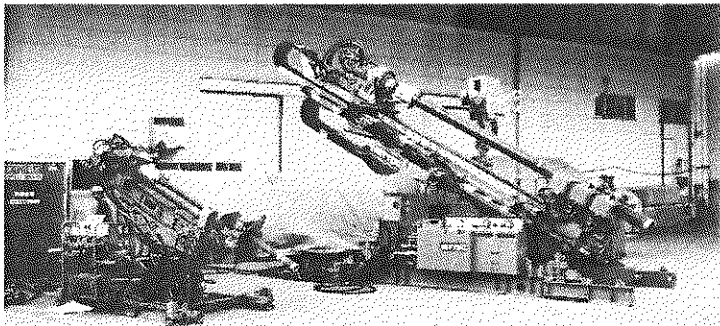
長尺アンカーの施工を伴う既存岸壁のケーソン耐震補強で、工事受注の拡大を狙う。

新型機の名称は「Ei n Bandドリル」。東亜利根ボーリング（東京都港区、伊藤春彦社長）が製作を担当した。最大能力は回転トルクで18トン当たり24キニュートン（N）、フィード力で180キロN。直径216ミリの大口径アンカーに対応可能で、100メートル深さまで施工できる。

が減らせ、工期短縮やコスト削減につながる。新型機の投入を足掛かり、同社は港湾施設の耐震補強工事受注拡大を目指す。コンクリートタムや砂防ダムの耐震補強、地熱利用向け掘削などもターゲットにする。東日本大震災の発生を契機に港湾施設などでは、耐震性を高めるための検討が相次いでいるという。

2012年（平成24年）6月18日（月曜日）

日刊建設工業新聞



一般的なロータリーパーカッションドリル（左）と日特建設が開発した新型機（右）

既存岸壁の耐震補強工事に適用すれば、ケーソンを掘え付けの際に設ける捨て石マウンドでも、精度を落とさずアンカー施工が行える。大口径で大深度のアンカーを採用することで、耐震補強に必要なアンカーの本数